

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般	1～2年生	5万円/月額
	3～4年生	6万円/月額
	5～6年生	7万円/月額
特別	全学年	12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中のサポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省 指定臨床研修病院 高松平和病院



学生サポートセンターみき



お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当/中田、野口、花谷
tel.070-1258-6360 mail:heiwahp@gmail.com
香川民主医療機関連合会
高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



ブログ更新中

<http://www.heiwahp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～

アンケート
はがきの返信を待た
せています。



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-833-8759

〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

発行元：香川民主医療機関連合会

2017 AUTUMN / WINTER

K I M A I



医 学 生 と
香 川 民 医 連 を
む す ぶ 情 報 誌

MIN I REN

CONTENTS

- ・キラッとかがやく医師の仕事
- ・研修医日記
- ・「地域医療講演会」
- ・編集後記

キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味

香川民主医療機関連合会



香川民医連 **かがやく医師のしごと**

リハビリテーション科医師とは、病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することを専門とする医師です。
日頃高松協同病院の現場で奮闘する植木昭彦医師にお聞きしました。

生きる時を、活かす力。 リハビリテーション医学

高松協同病院のリハビリテーション科医師（リハ医）、植木昭彦です。みなさん、リハ医って何をしているのって思いませんか？

重い病気やけがの場合、急性期治療が終わって命が助かって、体力が低下したり障害が残るなどして、完全に元の生活には戻れません。いまの「生きている時」をより充実させるために「活かす力」になるもの、それがリハビリテーション医学で

す。そしてリハ医とは、このリハ医学に基づいて、障害を負った患者さんたちが、元の生活が無理でも、新しい普通の生活が送れるよう、ともに治療・サポートしていく存在です。

今では、リハビリテーション科の医局がある大学も増えましたが、それでもリハ医の数は多くはありません。救急や外科系のような派手さはありませんが、様々な職種や道具、地域の力を借りて患者さ



▲高松協同病院・西棟棟担当の植木昭彦医師

んの社会復帰を援助しています。時にはロボットや補助犬も使います。また、小児から高齢者、さらにはパラリンピックに関連するアスリートまで、対応する世界が広いことも魅力です。

私自身は、初期研修を内科医として高松平和病院で行い、専門研修でリハビリを専攻して2年間県外へ行ったときに、このリハビリテーションの魅力（魔力？）にはまってしまいました。内科・外科など

の専門性を横断しながら患者さんを見るうえ、急性期から在宅医療、住宅環境や装具・車椅子、そして補助犬まで対応する懐の深さにすっかり洗脳されて、2002年に高松へ帰ってきました。この年の8月に高松協同病院が開院し、そのまま現在までリハ医として15年以上働いています。

高松協同病院は、リハビリテーション専門の病院です。85床の病院ですが、回復期リハビリテーション病棟しかありません。この病棟は、脳卒中や整形疾患・治療中の廃用症候群など、治療や手術が終わった患者さんに集中的なリハビリテーションを行い、社会復帰につなげる病棟です。県内の急性期病院と連携して、紹介された患者さんのリハビリを行っています。私が香川医大出身のためか、連携先の病院に学生時代からの知り合いや先輩・後輩も多く、地元大学出身のメリットを活かして仕事をしています。

当院の病棟は、一言で言うと病院らしくありません。患者さんは朝起きると普通の服に着替え、日中は最大3時間の個別のリハビリだけでなく、体力強化のための立ち座り訓練や、宿題のような自主トレーニングもこなします。食事は3回とも食堂で食べ



▲高松協同病院全景



▲多職種で集まってカンファレンスを行います

植木 昭彦 医師

Doctor Akihiko Ueki
profile
高松協同病院 副院長
リハビリテーション科医
愛媛県出身
香川大学1995年卒業
愛光高等学校卒業





▲東病棟担当北原孝夫医師とスタッフ一同

毎食後と寝る前には歯磨き、そしてパジャマに着替えて就寝です。昼間に理由なくベッドで横になっていると、スタッフに起こされます。このため、昼間のベッドはもぬけの殻です。落ちた体力を戻し、自宅で普通に生活するためには、1日を通じて動ける身体作りが重要です。病棟ではリハ医とともに看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・歯科衛生士・事務職員など多職種が関わっていますが、いわゆる職種間の壁がなく、病棟全体が1つのチームとなってリハ医療を実践しています。

現在、年間370人程度の方が入院し、退院していきます。退院後のリハビリも継続して行うため、病院の外来リハビリだけでなく、通所リハビリや訪問リハビリも一緒に行っています。開院して15年たちましたが、「リハビリなら高松協同病院」と言われる程度にはなったかな?と思っています。急性期病院ではないため医師数は少ないですが、リハスタッフはあわせて100名を超える県内でも有数の病院になりました。

私自身は、自分にリハビリが必要になれば、入院したくなるような病院をつくりたいと思っています。最先端のリハビリ治療にはまだ足りないこともありますが、日本のトップレベルの技術もスタッフ全体で力をつけながら、香川・高松になくてはならないリハビリ病院にしたいと思います。



▲植木昭彦医師とスタッフ一同



▲毎週木曜日には高松平和病院の整形外科医 中平旭医師が診察に来られます

北原 孝夫 医師

Doctor Takao Kitahara
profile
高松協同病院 院長
内科・リハビリテーション科医
愛知県出身
香川大学1999年卒業
千種高等学校卒業



香川の医療最前線

高松協同病院副院長 植木昭彦氏



医療の進歩により、重い病気でも助けられるようになった。しかし、重症患者が元の生活に戻るには容易ではなく、「回復期リハビリテーション病棟」が注目を集めている。専門病院の開院から間もなく14年を迎える高松協同病院の植木昭彦副院長に取材した。回復期リハビリテーション病棟とは、急性期病院で治療を受けた患者が、日常生活に必要な動作を取り戻すためのリハビリに特化した病棟のことだ。在宅復帰を目指して専門的なトレーニングを行っている。

在宅復帰へ専門的訓練 病床数の確保が課題に

回復期リハビリテーション病棟とは、急性期病院で治療を受けた患者が、日常生活に必要な動作を取り戻すためのリハビリに特化した病棟のことだ。在宅復帰を目指して専門的なトレーニングを行っている。回復期リハビリテーション病棟とは、急性期病院で治療を受けた患者が、日常生活に必要な動作を取り戻すためのリハビリに特化した病棟のことだ。在宅復帰を目指して専門的なトレーニングを行っている。



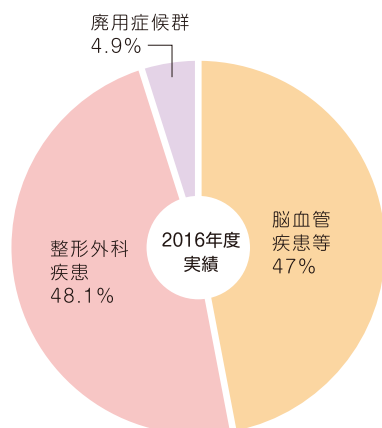
回復期リハビリテーション病棟とは、急性期病院で治療を受けた患者が、日常生活に必要な動作を取り戻すためのリハビリに特化した病棟のことだ。在宅復帰を目指して専門的なトレーニングを行っている。

植木昭彦氏(左)と高松協同病院副院長の植木昭彦氏(右)。

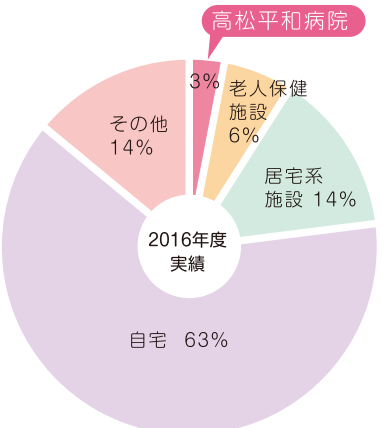
■高松協同病院
リハビリテーション科、内科、外科、整形外科の専門医師のほか、歯科衛生士も所属。作業療法士や理学療法士、看護師らと連携し、さまざまな視点から患者をサポートしている。
所在地 高松市木太町4664
電話 087(833)2330
http://t-kyodo.com/

▲四国新聞に植木先生が掲載された記事

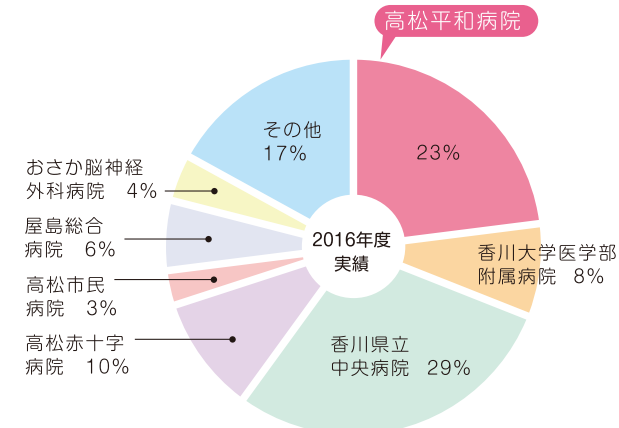
入院患者原因割合



高松協同病院からの退院先



入院紹介元



当院はリハビリテーション科専門医のプログラムに外部病院と協力して参加しており、臨床研修後のリハ科専門医取得が可能です。また、全国の他のリハ専門医プログラムへの紹介も可能です。リハ医に興味がある医学生さん、また実習も受け入れておりますので、学生担当者まで御連絡ください。
病院実習受入担当窓口 高松平和病院医学生担当 中田・野口・花谷
TEL087-833-8113(代表) E-mail:heiwa@gmail.com



研修医日記

研修医に日々の研修模様を語ってもらいます



研修医生活が始まって半年が過ぎようとしている初期研修医の半山です。前回簡単な自己紹介をさせていただきましたが、今回は近況報告をしたいと思います。

4~7月までは内科の研修をし、8月からは救急の研修を行っています。救急車の対応は自分一人ではな



▲佐藤龍平指導医(写真右端)のもと挿管の研修中

※副直とは診察時間外の18時~翌朝8時半までの間、研修の一環として当直をしている上級医と一緒に診察時間外に来院された救急の患者様の診察を行うこと。

かなか難しいため、上級医の先生の治療に加わり、見て、手を動かして、学んで、の毎日です。

前回と大きく変わったことと言えば、夜の※副直勤務が始まったことです。夜間に救急車や徒歩で来院する患者さんの対応では、日中ではできない経験をすることができます。その中で、ある上級医の先生の言葉が印象に残っています。「単なる熱や風邪でも、明日まで待てずに、今こんな遅い時間に来るのには何か理由がある」と。仕事で来られなかったかもしれない、急にひどくなって我慢ができなかったかもしれない、心配でたまらなかったかもしれない…軽い症状の場合でもその人が夜遅くに受診する理由は何だったんだろう…そう考えると、患者さんの不安なことや困っている事は何か、どうすることが患者さんにとってベストな選択なのかまで、気にかけることを意識するようになりました。

臨床の手技に加えて、人間味のある部分も学ぶことができ、日々充実しています。10月からは整形外科での研修がスタートします。元気で手術に望めるよう体力作りがんばります!それから、最近気分一新でイメージチェンジに髪を切りました。そのお話は次ページで…

半山 栞 医師

Doctor Shiori Hanyama
Profile
高松平和病院 初期研修医
香川県出身
香川大学2017年卒業
高松高等学校卒業



HAIR DONATION

~誰かの笑顔のために~



みなさん、ヘアドネーションをご存じですか?ジャパンヘアドネーション&チャリティーによると「頭皮・頭髮に関わる何らかの病気が原因で髪の毛を失い、ウィッグを必要としている子ども達に、医療用ウィッグの原料となる毛髪を間接的に提供すること」だそうです。

最近ではベッキーさんや柴咲コウさんなどの芸能人もぱっきり髪を切ったことで話題になりましたよね。私も学生時代に友人がのばしていた髪をぱっきり切ったことで存在を知りました。

寄付できる条件として、31cm以上の長さがあること、ひどくダメージを受けている髪でないこと、完全に乾いた髪であること、などがあります。パーマやカラーをしていても構わないそうです。

ちょうど卒業式に向けて髪をのばし

ていたため、せっかくならこの髪が誰かの笑顔につながればいいなと思い、寄付に向けてがんばることに決めました。しかし、31cmまでの道のりは長く、我慢の日々が続きました。そんな中、ネットで検索していると、15cmでも髪を寄付できる団体を見つけました。髪の毛付きインナーキャップウィッグに使われるそうです。これならできる!と思い、即日美容院へ行き髪を切りました。写真のように結んで束で切って郵送します。切った後のすっきり感といったらもうこの上ないこと!私の髪の毛がどこかで役に立っているといいなと思う今日この頃です。

みなさんぜひ、興味があれば調べてみてくださいね。新しいことを知る良いきっかけになればいいなと思います。



研修医日記

研修医に日々の研修模様を語ってもらいます



こんにちは。平和病院で働き始めてはや半年間が経ちました。「大分慣れて来たかな」と油断していたら、分からないことが出て来て足元をすくわれるという毎日ですが、何とか頑張っています。

今回は外来業務について紹介します。外来には予約外来と初診外来の二種類があります。予約外来で



▲初診外来の様子、患者様の緊張を和らげるような診察を...

は初診外来や退院された、自分が担当した患者さんのその後の経過を診る外来です。糖尿病や高血圧の薬の調整といった既に診断が決まっている患者さんを診る場合がほとんどです。一方で初診外来は発熱や腰痛などを訴える患者さんを初めて診る外来です。現病歴や身体診察、検査結果などを総合的に判断して診断をつけるわけですが、これが実際にはなかなか難しいことが多いです。教科書的には『この主訴だったら、この症状を確認して、この診察をして、この検査をして...それならこの疾患』とそれらしく書かれています。そんなふうまいかないことも多いです。迷いながら何とかこなしている感があるので、終わった後には反省することも多いです。

今はまだ安心してできる予約外来の方が好きですが、もっと色々な経験をして初診外来にも自信を持つ医者になれるように頑張ります。

安田 理 医師

Doctor Osamu Yasuda
Profile
高松平和病院 後期研修医
●●県出身
香川大学2015年卒業
茨木高等学校卒業



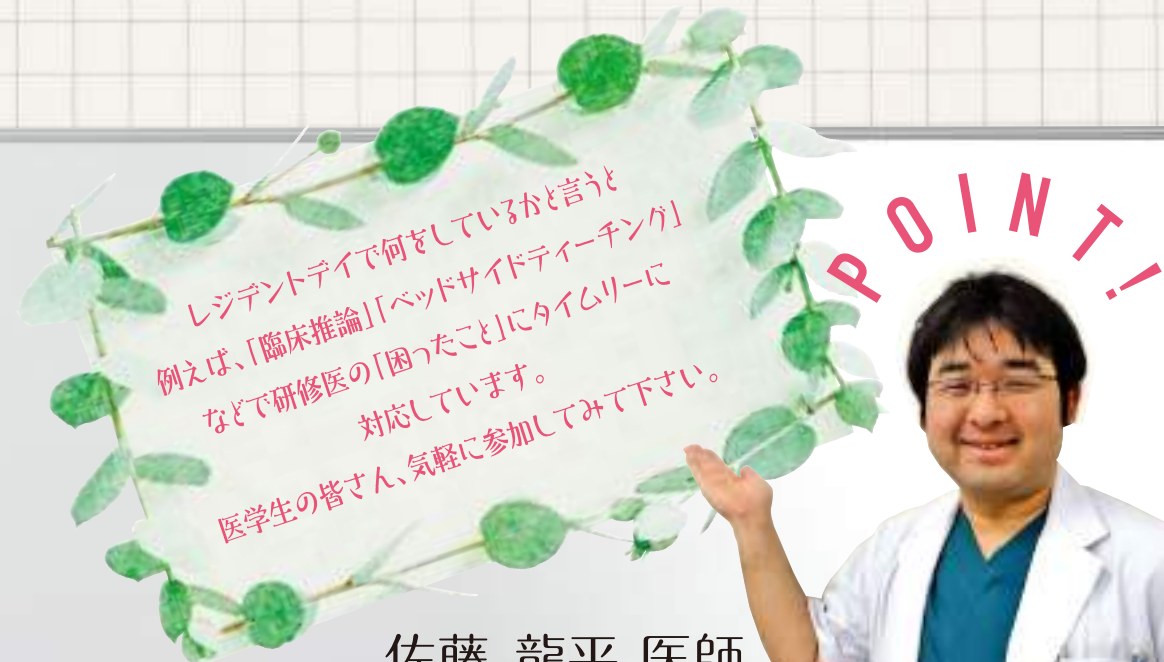
Resident Day

高松平和病院では今年度より毎週火曜日の13時から約2時間、初期研修医と後期研修医と指導医が集まって「レジデントデイ」と銘打った勉強会を開催しています。※時々、実習に来てくれている医学生さんも参加してくれています。

「レジデントデイ」では研修医が自分で担当した症例や相談したい事などを気軽に持ち寄り、内科家庭医の佐藤龍平医師よりレクチャーを受けながらディスカッションを行っています。持ち寄った症例を指導医と一緒に振り返る中で研修中の課題が見つかったり、診療する上でのポイントなど共有して勉強する事ができ、研修医にとって大変貴重な時間となっています。



レジデントデイに
医学生さんが参加
してくれています。



レジデントデイで何をしているかと言う
例えば、「臨床推論」「ベッドサイドティーチング」
などで研修医の「困ったこと」にタイムリーに
対応しています。
医学生の皆さん、気軽に参加してみてください。

佐藤 龍平 医師

Doctor Ryuhei Sato
Profile
高松平和病院 内科・家庭医
●●県出身
鹿児島大学2011年卒業 高松高校卒業



地域医療講演会&奨学金 説明会を開催しました。



▲地域医療講演会&奨学金説明会会場

8月20日(日)に、地域医療講演会&奨学金説明会をサンポートホール高松の会議室で行いました。去年の夏から始めた取り組みで、今年で2回目の開催になります。医学部を目指す高校生・浪人生が15名、保護者も8名参加してくれました。講演会の内容は高松平和病院・内科医師の原田真吾先生が「地域医療とは何か」を自身が行っている医療活動を通して事例をもとに分かりやすく話してくれました。他にも研修医1年目の半山菜医師から大学時代の様子や、現在行っている研修内容の発表を行ってくれました。嬉しい事に、昨年講演会に高校生として参加してくれた学生さんが、今年は医学生という立場で参加して、「医学部合格までの軌跡」を発表してくれました。講演会の後には奨学金の説明会と医学生への質問ブースを設けて対応してもらいました。奨学金説明や医学生への質問コーナーには多くの方が参加してくれました。医学生に受験のこと、大学のこと、たくさんの質問が飛び交い「有意義な時間が過ぎた」との感想を頂きました。

来年以降も地域医療講演会&奨学金説明会を開催していく予定です。興味のある方は当院ホームページに6月頃には案内が掲載されていますので是非ともご参加下さい。



▲地域医療講演会&奨学金説明会チラシ

感想

- 地域医療とは何かということについて以前より考えが深まりました。また医学生から実際の受験勉強の方法について聞くことができて良かったです。
- もともと地域医療より最先端医療に興味を持っていましたが、これからの少子高齢化を視野に入れると地域医療も重要だと思いました。



▲原田医師の講演の様子



▲医学生に真剣に質問



▲奨学金の説明を受ける親子



読書をコミュニケーションツールのひとつとして



【紹介者】
栗林公園前薬局
薬剤師
多田 開人

はじめまして。かがわ保健企画栗林公園前薬局で働いています多田です。

一般に薬局では、薬を調剤して渡しているだけというイメージが強いと思います。しかし最近では薬局内で健康チェックを行ったり、薬局の外に出て実際に患者さんの家に伺うなどの幅広い活動に取り組んでいます。そんな私のおすすめは読書です。本を読むことで知識を広げ様々な人とのコミュニケーションの取っ掛かりを作ることができると思います。2015年から2016年の世界医

師会長を務めたマイケル・マーモット著の「健康格差 不平等な世界への挑戦」という本では、健康は所得だけでなく教育や環境などの社会的要因で決まることやその科学的根拠や具体的エピソードがグーモアたっぷりに紹介されています。気になる方はぜひ勉強の合間にも読んでみて下さい。



編集後記

夏休み期間中は医師体験や病院実習、講演会とたくさんの企画がありました。どの企画に参加してくれた学生さんも「将来医師になりたい!」「こんな医師になりたい!」と意欲に溢れていました。そんな皆さんのやる気をくすぐるきっかけになるKIMAIでありたいと思います。(花谷)



▲原田医師と実習に来てくれた学生さん

[アンケートはがき・KIMAI 2017年夏号の感想]

- 記事を読んでますます医学部へ行きたい気持ちが強くなった。(予備校生)
- 研修医のお二人の研修内容を知り4年後の自分に対して楽しみ半分、不安半分です。(医学部3年生)
- 緩和ケアでは治療とともに精神負担を減らすことが大切なことがよく分かりました。(高校3年生)

★多忙を極める医師が、お昼に何を食べているか気になりませんか?働く医師の昼ごはん「イシめし」の連載を始めます。



初回は後期研修医の植木一駿医師の「イシめし」です。野菜たっぷりのスープにフォカッチャと大好きなカフェラテです。オシャレな「イシめし」ですね。

